

## 「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.19

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

### 県内の学生と被災地の高校生がともに学ぶワークショップを開催しました

6月29日、沿岸被災地の高校生といわて高等教育コンソーシアム連携校（岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校）の学生がともに学ぶワークショップを宮古市で開催しました。

このワークショップは、次世代を担う高校生と学生が被災地（故郷）の復興について自らが考え、未来を描き、互いに刺激しあひながら学ぶことで、「考える」力を養い、進学・就職などの近い将来に新たな気づきを与え、将来のリーダー、10年後、20年後の地域を支える中核的な人材の育成へ繋げることを目的としています。昨年に続き2回目の開催となった今回は、「私たちの未来を考える」をテーマに、沿岸被災地の久慈高校、岩泉高校、宮古高校、宮古工業高校、山田高校、釜石高校、遠野高校、大船渡高校の生徒64名、コンソーシアム連携校の学生26名（うち岩手大学生14名）が参加しました。

コンソーシアム事業推進責任者である岩手大学人文社会科学部の後藤尚人教授（三陸復興推進機構教育支援部門いわて高等教育コンソーシアム連携班長）が講師を務めるとともに、岩手県復興局の小野博計画担当課長らが岩手県における復興



岩手県の復興の取組について説明する  
岩手県復興局の小野博計画担当課長

の取組について説明。参加者は13グループに分かれ、産業振興やエコタウン形成、津波伝承まちづくりなど5つのテーマを選び意見を交わしました。多彩なエコ体験ができるテーマパーク構想など、高校生・大学生ならではの柔軟な発想をそれぞれのグループがまとめ、人気投票を実施。上位5グループがステージ上で将来ビジョンを発表しました。

今回の意見は、岩手県が今年度策定する「復興実施計画（第2期）」や「三陸創造プロジェクト」への提言として取り上げられることになっており、小野課長からは、「非常に貴重な提言をいただいた。発表があったグループの意見はもちろんのこと、グループ討論の際の一人ひとりの発言が大きな宝だと感じた。知事には全ての提言を伝えるとともに計画に反映させていきたい」との講評をいただき、今後自らが率先して復興に関わっていく重要性を「ともに学ぶ」機会となり、非常に有意義なワークショップとなりました。



それぞれのテーマに沿ってグループワークを行う  
大学生と高校生

### 第3回三陸復興推進機構ワークショップを開催しました

6月28日に、学内の教職員を対象に第3回三陸復興推進機構ワークショップを開催しました。

このワークショップは、三陸復興推進機構所属職員の活動報告と意見交換を通じて、各部門間の連携をより強化するとともに、被災地支援活動を更に充実することを目的に昨年度から開催しているものです。

昨年度は、「被災地のコミュニティ」をテーマに2回開催し、被災者の心のケアやフリーペーパーを用いたコミュニティ再建支援について意見交換をしました。

今年度は、「特任研究員等の活動と三陸復興について」をテーマに3回開催する計画です。

6月28日に開催された今年度第1回目のワークショップでは、水圏環境部門から1名、水産・養殖部門から4名の特任研究員等が、昨年度までの活動状況と今年度の計画について発表するとともに、参加者と積極的な意見交換を行いました。

特に「河口・沿岸域の生態系調査」の発表では、震災後の底生生物の種類と増減の因果関係について熱心な質問があり、これから行う経験変化の調査の重要性が再認識されました。

また「遺伝子分析を用いた三陸岩手の魚類の資源増殖に関する研究」では、岩淵明機構長から、サケ資源回復に向けて、周辺環境がどのように影響するのかとの質問の他、水圏環境部門と連携を強化して取り組んで欲しいなどの要望も出されました。

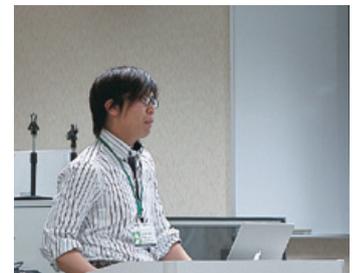
三陸復興推進機構では、今回のワークショップで出された意見を参考に、各部門の横断的な活動を進めていく予定です。

#### 第3回ワークショップ報告発表者

- 1) 河口・沿岸域の生態系調査  
水圏環境部門-木下今日子特任研究員
- 2) 遺伝子分析を用いた三陸岩手の魚類の資源増殖に関する研究  
水産・養殖部門-塚越英晴特任研究員
- 3) 岩手県シロザケの遺伝特性分析 -手法の詳細について-  
水産・養殖部門-照井沙友里特任研究員
- 4) 三陸シロザケにおける遺伝解析用msDNAマーカーの開発  
水産・養殖部門-奥村大志特任研究員
- 5) 山田湾のアカモク資源量調査と養殖技術開発 -マガキの春季出荷の有効性調査-  
水産・養殖部門-澤井雅幸プロジェクト技術補佐員



発表する木下今日子特任研究員  
(水圏環境部門)



発表する塚越英晴特任研究員  
(水産・養殖部門)

# 岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、岩手県沿岸の学校において、災害文化の継承に取り組む地域防災教育研究部門(地域防災研究センター・災害文化部門)の活動についてご紹介します。

## 防災教育が照らし出す災害文化～ 地域防災研究センター災害文化部門における活動

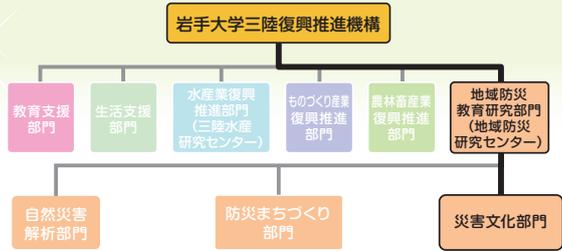
岩手大学地域防災研究センター 災害文化部門  
山崎 友子(教育学部 教授)

『いのち』一震災の年に宮古市立田老第一中学校で学んだ全ての生徒達が、津波体験を作文にしました。震災体験と教訓を風化させないという思いで取り組まれた教育活動の一つです。実際の避難の様子とそれぞれの心の中が記述されており、被災者の視点から描かれた貴重な記録となっています。作文の分析を加え、作文集として地域防災研究センターから出版されました(センターHPに掲載予定)。中学生の行動や考え方は利他的特色を持ち(保育園児やお年寄りを助けながら津波から逃げる等)、地域の復興の担い手となろうという意思が芽生えていました。中学生は被災体験を通して、一気に成長したのです。



津波体験作文集『いのち』

災害は、一時の異常な自然現象の発生の把握にとどめるのではなく、その前の警報・警告、災害の発生、復旧・復興、防災という4つの段階でトータルに把握する必要があります。自然現象は再び発生します。人は災害に対峙してきた歴史を持ちます。その中で災害文化が醸成され、次



の世代に継承されていきます。災害文化研究はこのような災害と人間の関わりを記録し、災害に強靱なコミュニティを創るための知見を考察するものです。地域の課題に具体的に取り組む防災教育が災害文化の相親を照らし出します。風化の阻止を防災教育のテーマとして取り組んだ田老第一中学校では、主体的・協働的な態度価値を獲得した若い市民の誕生を見ることができました。

地域社会が甚大な被害を受けた場合、学校教育が果たす役割は大きく、地域と連携して災害文化を醸成・継承することが期待されます。震災前から実施している岩手大学高年次教養講座「津波の実際から防災を考える」の講義の一部として実施した中学生と大学生の合同授業を進展させ、震災後、小・中・高校生と大学生がともに学ぶ連携授業を実施しています。大学生は被災地の児童・生徒から刺激を受け、生きる力とは何かを学んでいます。復興に不可欠な「子ども」の視点をどのように確立していくか、今日問われている大きな課題です。今年度は被災地の児童・生徒の声をより多くの人に向けて発信する場を設け、災害文化の伝播も視野に入れた研究をすすめたいと考えています。



「おじいさん・おばあさんと一緒に住んでいる人?」「は～い」  
宮古市立田老第三小学校との合同授業(2011年9月)

# 久慈エクステンションセンターだより

今号は、NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」のロケ地として大変賑わっている久慈市にある久慈エクステンションセンターからお伝えします。

## ●ドラマロケ地としてのにぎわい

4月の放映開始以降、特に休日は全国からの訪問者で市内は大変混雑しています。劇中の「北の海女」のモデルである「北限の海女」の方々による素潜り実演は7月20日からスタートし、8月4日には北限の海女フェスティバルが開催されます。



北限の海女・素潜り実演の様子

また、久慈地区では、6月中旬から始まったウニ漁(※8月中旬頃まで)に加え、天然ホヤ漁が行われています。当地へお越しの際は、三陸の夏の味覚をぜひご堪能ください。

久慈地区をはじめ、沿岸各地で開催されるイベント情報については、釜石サテライトBlog (<http://sanriku.adm.iwate-u.ac.jp/blog/>)へ随時掲載しますのでお役にしてください。

この賑わいが、被災地の活力となることを期待します!

## ●久慈エクステンションセンターの活動

昨年4月の開所以来、久慈地域における様々な復興プロジェクトを実施しています。久慈地域は水産業が要ですので、水産関連プロジェクトへの

対応が多くを占めました(サケ類の増養殖技術の研究開発における遺伝特性分析標本の採集/久慈市沿岸若砥磯漁場環境・漁業資源調査/インターネット上のオープンデータとの情報連携から、水産物の新たな流通の形と高付加価値化を目指した水産物トレーサビリティ実証実験など)。



水産物出荷時のトレーサビリティ情報登録の様子(右上は商品に貼付された個体識別タグ)

その他、地場農産物を活用した新商品開発に関する技術相談、地域ブランド商品開発に向けた取組、さらに被災者自身が行う心のケア活動に対し、本学の担当教員へ取り次ぐことで、相談・支援依頼に対応しています。

エクステンションセンターでは、岩手大学の教員への相談・現地入りの窓口として、地域の方々と本学との、より密なつながり構築に向け活動していますので、お気軽にご連絡下さい。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

## 連絡先 久慈エクステンションセンター

〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1番1号  
久慈市役所(3階) 産業開発課内  
TEL:090-2953-2519 E-mail:kujixt@iwate-u.ac.jp

# Information

## 高校生、市民のための

## 第1回 海洋・水産研究チャレンジセミナー

岩手大学・東京海洋大学・北里大学・東京大学の研究者が、海洋・水産の可能性を追求した研究内容をご紹介します。

開催日: 8月12日(月) 13:00~16:45

会場: 岩手大学 釜石サテライト セミナー室(釜石市平田第3地割75-1)

参加費用: 無料

主催: SANRIKUプロジェクト(岩手大学・東京海洋大学・北里大学) いわて海洋研究コンソーシアム(東京大学他)

後援: 岩手県教育委員会、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会、岩手県沿岸広域振興局、(財)釜石・大槌地域産業育成センター

お問い合わせ・申し込み先 岩手大学 三陸復興推進機構 釜石サテライト  
電話: 0193-55-5691

## 内容

<講演>

- ・発生工学を利用したサケとアワビの新品種開発～釜石発のブランド種苗を作ろう!～(東京海洋大学 竹内裕 准教授)
- ・サケ類の遺伝子研究について(岩手大学 阿部周一 特任教授)
- ・放流サケ稚魚の初期生残率を向上させるための取り組み(北里大学 森山俊介 教授)
- ・クロマグロ: 熱い血潮を持つ魚(東京大学 北川貴士 准教授)
- ・海の光と濁りについて(東京海洋大学 荒川久幸 教授)
- ・美味しさを保持する冷凍と解凍(東京海洋大学 鈴木徹 教授)

<体験ラボ>

- ・MRIでウニの中身を調べよう!(東京海洋大学 松川真吾 准教授・福岡美香 准教授)

## 編集後記

7月、岩手大学の広報グッズに、本学イメージキャラクターの「がんちゃん」をデザインした「がんちゃんプラモデル」が新たに加わりました。大学院工学研究科金型・鋳造工学専攻金型コースの学生5名によって製作された本グッズは、今後、大学見学等にいらっしゃる小学生に配布される予定です。



岩手大学イメージキャラクター「がんちゃん」  
がんちゃんプラモデル(全4色)